

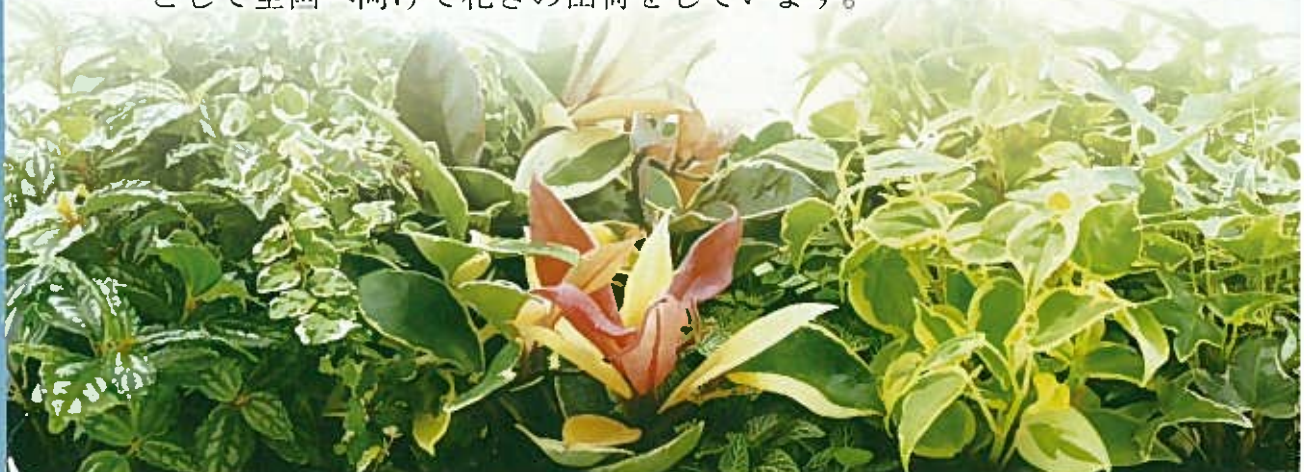


か 安城の花きを知ろう！

「^か花き」とは、観賞の対象として栽培された植物のことをいいます。花き類として扱われる植物は、1・2年生草花、^{しゅっこんそふ}宿根草、花木類など多くを含み、その出荷・利用形態により、切り花類、球根類、鉢ものの類、花壇用苗ものの類、花木・庭園樹及び芝に区分されています。

愛知県は、花きの農業産出額が全国第1位です。全国の産出額の15%を占め、昭和37年以降、第1位を続けています。きく、洋ラン（鉢）、ばらが全国一です。多くの花きがガラス室やビニールハウスなどの施設で栽培されています。

安城市を含めた碧海地区では、昭和25年頃から観葉植物を中心に洋ラン、きく、ばら等が各地区で点々と栽培されていました。昭和30年代には、花き生産者が大きく増え、その後、安城市では東京・九州・北海道への鉢物輸送が実施されました。そして、安城温室園芸団地組合（昭和43年）、安城温室箕輪団地園芸組合（昭和48年）、安城温室福釜団地園芸組合（昭和49年）の観葉植物生産3団地が完成し、全国有数の観葉植物の産地が形成されました。昭和51年には農協集出荷場を開設し、現在は安城市温室園芸組合として全国へ向けて花きの出荷をしています。



安城市の花き生産



切り花類



きく

観賞に用いるため、きく、カーネーション、ばら、ゆり等の草木類の花をつける枝や茎、葉などを切り取ったものをいいます。安城市では、主にきく（夏秋ぎく、秋ぎく）が栽培されています。

鉢ものの類

草花を鉢植えにしたもののほか観葉植物、サボテン・多肉植物、花木等を鉢植えにしたものをいいます。安城市では、ポトス、ドラセナ類、アンズリウムなど多種多様な観葉植物やシンビジウム、ファレノプシス等の洋ラン類が生産されています。ポトスは、産出額が愛知県下第1位です。ドラセナ類は県下第2位の産出額です。（平成22年度）



ポトス



ドラセナ類



アンズリウム



シンビジウム

花壇用苗ものの類



パンジー

花壇などに植栽し、観賞することを目的として生産出荷される1・2年草や宿根草の苗を花壇用苗ものの類といいます。安城市では、主にパンジーが生産され、県下第3位の産出額です。（平成22年度）